

2021年度事業報告書

法人の名称 認定特定非営利活動法人 子どものための国際音楽交流協会

○はじめに

新型コロナウイルスの世界的蔓延のために2021年度事業計画は様々な面で活動が制限されました。特に海外事業では現地に行くことが全くできず、国内での大使館との交渉など可能な部分で活動してきました。ここでは楽器の収集と寄贈の事業とそれを支える組織の運営などについて実績をまとめ、合わせて次年度への課題を明らかにします。

I. 事業方針

学校や自治体、企業や地域と連携し、使われていない楽器の収集と寄贈および国際平和支援に関する事業等を行い、子どもたちの音楽教育推進と世界平和の進展に寄与する。

II. 事業内容

1. 楽器の収集と保管・管理、寄贈および交流・音楽教育支援等の事業

1) 国内における楽器の収集・輸送・保管事業

①公立小中学校における収集活動

教育委員会やPTA、生徒会などとの連携による活動

- ・時期：2021年度中
- ・場所：神奈川県南足柄市、小田原市、山北町、松田町、開成町、中井町、二宮町、茅ヶ崎市、千葉県流山市、浦安市、野田市 埼玉県所沢市、栃木県等
- ・従事者人数：20人
- ・支出額：9,030円

②神奈川県内と近隣の私立小中学校および高等学校での収集活動

- ・時期：2021年度中
- ・場所：各地
 - *6月2回－山北町鹿島山北高校、*6月、11月－小田原高校、*10月－不二聖心女子学院、
 - *2022年3月－湘南工科大附属高校
- ・従事者人数：2人
- ・支出額：3,552円

③全国各地での団体、個人、企業での収集活動

- ・時期：2021年度中
- ・場所：各地
 - *開成ジュニアアンサンブル
 - *開成町サックスグループ S&SS
 - *太陽生命全国155支社が協力
 - *エイトレント社
 - モザンビーク共和国のニャルンゴ駐日全権公使と共に訪問し、学校教室用黒板等を受領。
 - 2022年春、楽器と共にモザンビーク共和国へ輸送する予定。
 - *エルパ社
 - 島貫歩美代表と会談。AIMECへの団体入会と寄附を受領

*ほかに各地の個人から寄贈

・従事者人数：3人

・支出額：3,568円

④青少年を対象としたボランティア参加による楽器修理、クリーニング

・内容：*新宿区「ESP エンターテイメント東京」による楽器修理

*AIMEC本部での音楽教師と中高生による楽器の機能確認とクリーニング

(5月と11月に地元の高校生、8月に横浜の中学生)

・時期：2021年度中

・従事者人数：10人

・支出額：3,240円

⑤課題

・楽器の取扱い数の増加に伴い在庫管理を正確で機能的に行う方法の確立

・遠隔地で収集された楽器の輸送と保管についての改善策

2) 海外における楽器の寄贈と音楽教育支援の事業

①大使館経由の楽器の寄贈

*4月ボツワナ大使本部来訪、*5月マラウイ副大使本部来訪、*8月イラク大使館見学、

*1月モザンビーク大使館調印式、

②セーシェルへの楽器の寄贈

在日セーシェル名誉領事館およびボニファセ・竹井国子氏との協働により鍵盤ハーモニカを

寄贈 → 2月にセーシェルから楽器を使った授業の様子が動画で送られてきた

③ウガンダにおける音楽教育支援事業

9月学園生徒の活躍を動画でレポート、

④課題

・海外までの輸送費捻出と現地税関での通関

・楽器寄贈先との情報交換や協力体制の維持発展

・国内楽器収集者へのフィードバック

・従事者人数：10人

・支出額：140,686円

2. 地域の文化祭や産業展等行事への参加

小田原市主催「地球市民フェスタ」や他の南足柄市、近隣自治体の行事への参加を予定していたが、コロナ禍のためにすべてが中止となった。

3. ICTを活用した海外との交流

楽器寄贈事業と関連付け、学校間の交流活動を計画したがコロナ禍のために実施できなかった(小中学生同士がスカイプやEメール、手紙などを利用した交流)

4. 青少年対象の国際理解促進事業の推進

・内容：楽器の収集と管理、組織運営への参加等

*学校での国際理解セミナー等の開催と協力

6月不二聖心女子学院で講演、11月栃木県中央小学校のSDG's講演

*本部でのサマーセミナー開催

9月、インターン宿泊研修、AIMEC 会員の小谷小田原市議の紹介、5名参加

*SNS 活用で広く情報発信し参加者・賛同者を確保

12月 Actcoin/Aimec イベント開催「あなたも Aimec しませんか」

3月 Activo でのボランティア募集 広報人材育成

- ・時期：2021 年度中
- ・場所：制限なし
- ・従事者人数：10 人
- ・支出額：18,418 円

5. 組織の拡大と整備及び財務基盤の強化

- ・認定 NPO 法人として持続性と公共性ある事業展開のための望ましい組織の姿を追求
- ・役員の実任体制明確化と女性理事の増員（世代交代を考慮）
- ・事業の拡大に伴う各地域での「地域代表」委嘱で機能的な事業展開
- ・新規ボランティアの獲得のための SNS を使った活動
- ・会員 100 人維持による組織及び財政基盤強化の取り組み継続
- ・従事者人数：10 人
- ・支出額：48,550 円

6. 広報宣伝活動

- ・AIMEC を紹介する三つ折りリーフレットの更新
- ・AIMEC ホームページの随時更新に加え、ツイッターやフェイスブックで情報発信
- ・新規 SNS 活用による広報活動の展開
- ・年 2 回の「ニューズレター」と年度末の「〇〇年度活動報告」の発行
- ・『AIMEC 総合マニュアル』の発刊
- ・従事者人数：5 人
- ・支出額：19,589 円

〇おわりに

コロナ禍にも拘らず、理事長の強力なリーダーシップと役員以下会員各位の理解と協力により、可能な分野で積極的な活動を続け、一定の実績をあげることができた一年でした。リモートでの活動を可能にしてくれた IOT に長けた役員の方々の尽力の賜物でもありました。

他方、行動が制限されることにより対面での対話が減少したために組織運営に多少の混乱が生じたり、さらには結成 12 年を経て役員の高齢化も進む中、役員体制をスリム化し、同時に世代交代を図ることで、機能的に動ける役員体制の確立が急務となっています。AIMEC12 年の活動の集大成である『AIMEC 総合マニュアル』の発刊を機に AIMEC の一層の飛躍を目指して行きたい。